




## 令和 6 年度 採択研究課題の概要

研究課題名	クラウド型ゲノム解析基盤の確立と新規コレラ治療法に向けた研究開発	貢献する 主な SDGs	
研究代表者 (所属機関・役職)	飯田 哲也 (大阪大学 微生物病研究所 教授)	研究期間	5 年間
相手国	インド共和国	主要相手国 研究機関	国立コレラ腸管感染症研究所
研究課題の概要			
<p>コレラは症状の激しい感染性下痢症であり、WHO は 2030 年までの制圧を目指している。インドのベンガル地方はコレラの故郷とも呼ばれる主要流行地として知られ、この地域でのコレラ封じ込めが世界的流行の予防となる。本研究課題ではインドで流行するコレラ菌の病原性や薬剤耐性を、クラウドコンピューティングを活用したゲノム解析によって日印で調査し現状を把握する。またコレラ流行の要因として無症状感染者の存在も指摘されており、腸内細菌叢解析による探索や患者への感染経路の追跡を行う。収集したコレラ菌流行株のゲノム情報から病原因子や腸管付着因子を調べ、それらを阻害する新規機序の薬剤開発へ繋げることを目標とする。</p>			

研究課題名	統合的ワンヘルスアプローチによる人獣共通マラリアの持続的制御法の開発	貢献する 主な SDGs	 
研究代表者 (所属機関・役職)	金子 修 (長崎大学 熱帯医学研究所 教授)	研究期間	5 年間
相手国	マレーシア	主要相手国 研究機関	マレーシア・サバ大学
研究課題の概要			
<p>マレーシアでは毎年 3000 人もがサルマラリアに感染し、問題となっている。また、現在はヒト間伝播の報告はないが、ヒト間伝播が起きると世界に拡散する恐れがあるため、その阻止が喫緊の課題である。本研究課題では、マレーシア・サバ州でサルマラリア患者数を大幅に減少させる技術と戦略の開発を目指す。具体的には、新規マラリア迅速診断法の開発、自動媒介蚊幼虫制御法の開発、リスク地域・時間・行動の同定、リスク教育プログラムの開発と社会実装、これらを統合したサルマラリア制御のためのワンヘルス戦略の構築である。これにより、マレーシアの公衆衛生上の負担と経済的損失が軽減し、ヒト間伝播を抑制することが出来る。</p>			

※研究課題の並びは、研究代表者名の五十音順です。